

鳥島におけるアホウドリ保護増殖事業について

1. 背景

鳥島におけるアホウドリの保護増殖事業については、前回(平成19年9月)の分科会で、以下の方針について諮問し、了承いただいた。

- ① 燕崎では、例年どおり2月に繁殖状況のモニタリングを行う。モニタリング結果より、繁殖地整備等事業再開の必要性が高まったと判断される場合には、分科会委員に諮り、対応の必要性を検討する。
- ② 初寝崎でも、例年どおり2月に繁殖状況のモニタリングを行う。モニタリング結果より、繁殖環境の維持改善等事業再開の必要性が高まったと判断される場合には、分科会委員に諮り、事業の方向性を検討する。
- ③ 初寝崎においては繁殖成功率の低下が見られ、雨水の滞留による影響が予想されたが、鳥島では極力人為を排除して観察を続ける方針としているため、現段階では注意深くモニタリングを続けることとする。
- ④ これまでモニタリングは、2～3月期と5月期の2回実施していたが、今年度より2～3月期の一回のみとする。なお、5月期に実施していた初寝崎のヒナへの足環装着は、長谷川委員に実施を依頼する(4月～5月)。

2. 平成19年度事業の実施結果

○鳥島(燕崎・初寝崎)でのモニタリング事業

実施期間：平成20年2月21日～3月6日(15日間)

実施結果概要：

- ・ 確認ヒナ数は、燕崎で245羽、初寝崎で25羽、子持山南斜面で4羽、合計274羽となり、昨年の227羽より47羽増加した。着実に増加し調査開始以降最多となった(図1)。このうち燕崎のヒナ10羽を2月19日に小笠原聳島へ移送した。

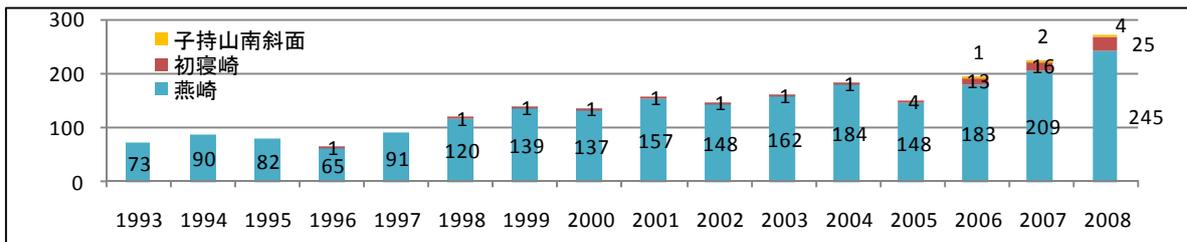


図1 鳥島における2-3月期の確認ヒナ数の推移

- ・ 初寝崎での毎正時(X時00分。7:00～17:00)の平均着地個体数は51.8羽であった。着実な増加が見られる(図2)。

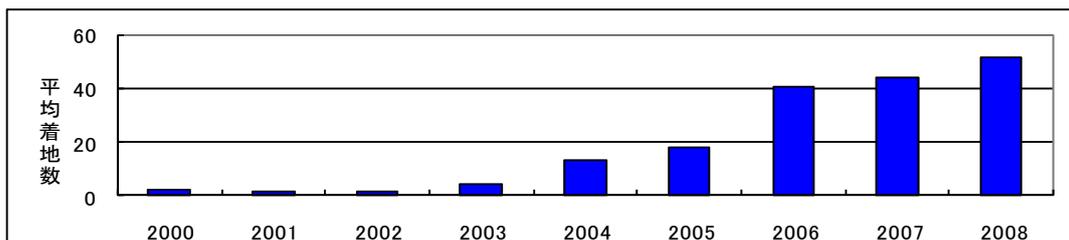


図2 初寝崎における2-3月の毎正時の平均着地個体数経年変化

- ・ 初寝崎で産卵した35つがいを含めて63ヶ所で特定のつがいの定着又は定着の可能性が認められた(図3。2007年は40ヶ所)。来期の産卵数の更なる増加が期待される。

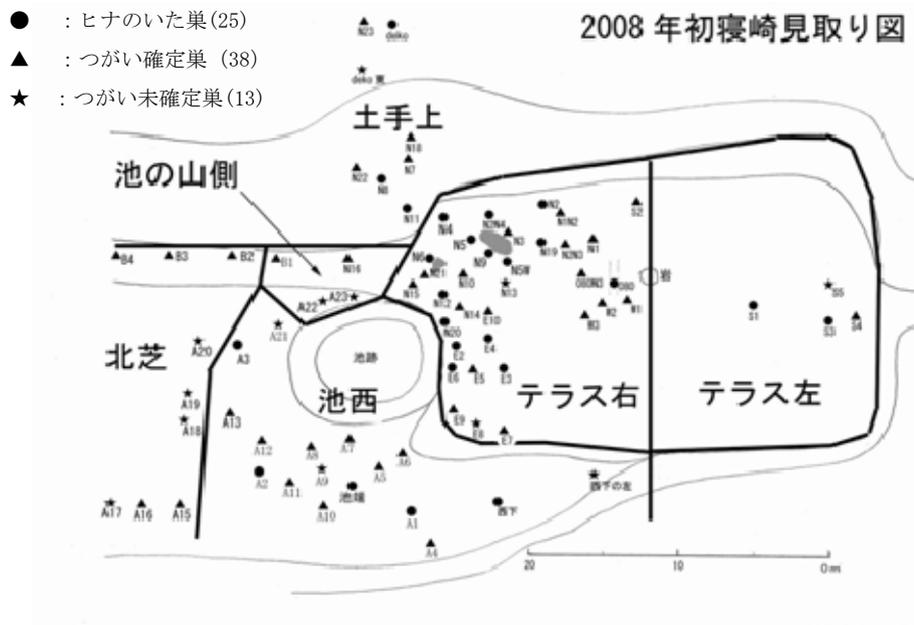


図3 初寝崎での営巣位置(見取り図(上)と写真(下))(2008年2月)

- ・ 燕崎及び初寝崎の繁殖地では、アホウドリの繁殖障害となるような問題は確認されなかった。
- ・ 初寝崎のヒナ25羽には、2008年4月に長谷川教授が金属足環を装着した。

3. 今年度事業の実施計画(案)

- ① 燕崎及び初寝崎でのモニタリングにより、昨年度も順調な繁殖が確認されたため、今年度も2～3月期に1回のモニタリングを行う。なお、初寝崎のヒナへは引き続き4月～5月に足環を装着する(長谷川教授)。
- ② 鳥島では極力人為を排除して観察を続ける方針とするが、モニタリング結果より、繁殖環境の維持・改善のための事業再開の必要性が高まったと判断される場合には、分科会委員に諮り、対応の必要性等を検討する。



写真1 初寝崎新繁殖地全景(2008年2月)



写真2 燕崎西コロニー全景(2008年2月)



写真3 燕崎東コロニー全景(2008年2月)